

平成 21 年 7 月 11 日

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中齋塾 東京フォーラム

平成 21 年 第 7 回講話

おはようございます。では、恒例の質問から参ります。

恒例の質問

目を瞑って、昨日一日何をしていたか考えて下さい。午前中は何をしていましたか？
嘘をつかなかったでしょうか？ リップサービスをしなかったでしょうか？ 良い日だ
ったでしょうか？

ではお聞きします。

「昨日一日、嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「昨日一日、良い日だったと思う方、手を挙げて下さい」

(・・・沢山手が挙がる)

「昨日一日、有難うと自分が言い、有難うと言われた方は手を挙げて下さい」

若干、手の挙がらない方がいらっしゃいました。有難うと言われるのはなかなか難しい
ようですので、どうぞお考え下さい。

中齋塾フォーラムの目的 判断基準を身に付ける

来月 8 月は、中齋塾フォーラムはお休みでございますので、中齋塾フォーラムの目的に
ついて、もう一度申し上げておこうと思います。非常に簡単な事で、一つだけ申します。
自分が生きていく上で困ったり、どうしたら良いか迷った時に、目安になるものを身に付
ける。つまり判断基準を我がものにすることが目的です。

それをする為に、基本的な考え方は知足です。足るを知る、ほどほどで良いとする考え
方です。ご飯で言うと、腹七分目が良い。

自分自身の判断基準・目安は何か。言葉として覚えて欲しいのは 2 つだけです。

一つは、知識・見識・胆識です。世の中、色々な情報がたくさん出回っているけれども、

今、自分の頭にあるものは知識の部類なのか、見識（この問題はどのように解決すべきだと自分なりに決定をする）なのか、或いは胆識（実行を伴います）なのか・・・知識・見識・胆識の観点でものを見る。

もう一つは、本質・大局・歴史です。ものを見る時に、この問題の本質は何か、大局的に見たらどういう事なのだろうか、歴史的に見たらどうだろうか・・・本質・大局・歴史の観点でものを見る。

これが出来たら、文句はありません。中斎塾フォーラムでこの2つを身に付けて戴ければ、完全に合格です。

今日の論語

論語は、自分が生きる上での目安になります。論語を自分の身の周りの出来事に置き換えて読むと、非常に役に立ちます。

本日は八佾第三 9～11章です。では解説します。

しいわ か れい われよ これ い き ちょう た
子曰く、夏の礼は吾能く之を言えども、杞 徴 するに足らざるなり。
いん れい われよ これ い そう ちょう た
殷の礼は吾能く之を言えども、宋 徴 するに足らざるなり。
ぶん けん た ゆえ た すなわ われよ これ ちょう
文 献足らざるが故なり。足らば 則 ち吾能く之を 徴 せん。

先ほどの素読で、「文献」と続けて読んでおられましたが、「文」(記録)と「献」(物知り)に分けてお読み戴くとよろしいでしょう。

孔子が言うには、夏の国の子孫である杞の国は、どういう礼式が行なわれているか、証明するのに資料が足りなすぎる。

夏の礼も殷の礼も、私はよく引き合いに出して言うのだけれども、殷の子孫である宋の国も、色々説明しようとしても資料が足りない。

記録が足りないし、物知り・古老も少ない。文と献、こういったものがあれば私は、杞の国や宋の国はそれぞれ夏と殷の礼を十分受け継いでいるのだと証明できるのだが・・・。

資料がないから証明できないと孔子が嘆いています。何事につけても、記録は残した方が良いという事です。

これを現代に置き換えて考えると、例えば会社に税務署が入ったとします。いつ、どこへ行き、こういうお金を使ったという資料をきちんと残しておかないと説明できません。今の税務署はどこがおかしいですね。マクロでみると、日本の国を滅ぼそうという動きを

しているように私には見えます。目先の税金に目を血走らせて、必死になって取り立てているように見える。

いずれにしても、記録については余程よく考えるとよろしいでしょう。「吾能く之を徴せん」とあります。「徴せん」とは、証明するという意味ですから、「徴」という文字でこの章を覚えて戴くと良いと思います。

子曰く、禘 既に灌してより往は、吾 之を觀ることを欲せず。

禘とは、天子のお祀りで、国として祖先の御霊をお祀りする大きなお祀りです。

灌とは、お神酒を大地に注いで、神様が天上から降りてくる儀式です。このお神酒は、黒黍を醸して酒を作り鬱金草を煮て入れたもので、香りが非常に高いお酒だそうです。どんな味がするのでしょうか。

この場合は、「吾 之を觀ることを欲せず」とありますから、礼に反するお祀りをしようとしているので、孔子は見たくないと言っています。自分の身内の恥をさらしたくないと思っているわけです。

ここを読んで、頭に浮かんだのは舛添さんです。今日もテレビで、「ポスト麻生の呼び声が高くなっているけれども、総理大臣になる気持ちがありますか」と聞かれていました。舛添さんは「ありません」と答えていました。社会保険庁で次から次に問題が出る。自分が一所懸命火消しをして、付け焼刃でも何でも問題を解決するように努力しているにもかかわらず、何と不祥事を重ねてくれるものか、そういう不祥事はもう見たくない・・・という気持ちで、「吾 之を觀ることを欲せず」と読んで戴くとよいと思います。

世の中を見ていると結構、「吾 之を觀ることを欲せず」という事例があると思います。そういう時は自らを新しくしていけば良いと、この章をお読みになればよろしいでしょう。

ある てい せつ と しいわ し そ せつ し もの てんか お そ
或ひと禘の説を問う。子曰く、知らざるなり。其の説を知る者の天下に於けるや、其
こ ここ み ごと そ たなごころ さ
れ諸れを斯に示るが如きかと。其の 掌 を指す。

「知らざるなり」というのは、本当に知らない場合と、その件については考えていない・知っているけど言わないという場合もあります。

細かく申しますと、魯の国の4代目閔公と5代目僖公は、兄弟で王位を継承しました。

僖公の子供である文公が、その次の王位についたわけです。禘のお祀りで、位牌が順番に並んでいなければならないのに、文公は自分の親の僖公の位牌をひとつ前に置いていた。これは礼に反するわけです。

そのあたりの事を知っていて、或る政治家が孔子に「このように礼を逸している事をしているけれども、あなたはどう思いますか？」と少し意地悪く聞いてきたわけです。

それに対して孔子が「私は知らない。そういう内容を知っている人なら、この掌に世界を納めて眺めているようなものでしょう」と自分の掌を指した。そういう事が分かっている人間なら、本当に世界を治めることもできるだろうと、すんなりとかわしている問答です。

ここで注目すべきは、「知らざるなり」という部分です。知っていて「知らない」と答える重みを考えるとよろしいでしょう。

麻生さんが「しかるべき時にしかるべき判断をします」とテレビで言い続けて、2ヶ月くらい経ちました。

知識・見識・胆識で見れば、解散権は総理大臣が持っているのですから、当然知識としてはある。麻生さんは、この時期にこういうふうにしようと色々な工作を考えていたように見えます。これは見識で、こうすべきだと肚をくくった場合です。ところが、自分の考えとは違った問題がいくつもいくつも起きてくるので、次のチャンスを待とうと思って、ずるずるとずらしてしまっただけです。何か問題があっても、自分で決めたものについては、何としても実行する。実行力を伴った見識を胆識と言います。麻生さんは胆識が足りないと思います。

「しかるべき時にしかるべき判断をします」と言った言葉は、「知らざるなり」という科白と同じです。「知らざるなり」も、あまり使いすぎると良くない。本当にぎりぎりの時に、一回だけポンと言うのが役に立つのです。年がら年中「知らざるなり」とやっていると人心が離れてしまいます。麻生さんはそういう例だと思います。

論語の話をもう一つ致します。

渋澤栄一さんは、「自分は論語で教わった事を一生涯通じて守り抜いた。これは自分で自分を褒めてあげたい。自分で自分をたいしたものだと思える根拠にしている。それは言い方を変えると、天命を知ったと言っても良い」と残しています。

論語に次のような言葉があります。

子曰く、吾十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従

えども矩^{のりこ}を踰えず。

渋澤栄一さんは84歳の時に、この文言をしみじみ味わって、「四十の不惑の境涯は、自分自身で考えてみるに、七十代に入ってから、やっと手に入ったように思う。」と残しています。尚且つ六十代の耳順については、「人さまの言う事で気持ちがころころ変わる事がなくなったのは、七十過ぎてからだ」と言っています。

皆さんも自分の年代をここに置き換えて、考えてみて下さい。40代の方は・・・いらっしゃいますね。40代は論語では不惑の年代です。色々な事に迷わないで人生進んでいけると書いてありますが、どうでしょうか？ そういう感じがしますか？ 実際は、40代はだいたい迷いますね。だから迷わないように努力しましょうという解釈が良いと思います。

50代の方もいらっしゃいますね。50代は、一生涯を通じてこの仕事でいくのだと腹を決める時です。自覚をする、悟る、又は諦めと言っても良いのですが、一生涯貫く仕事に巡り会ったのだと思える時代が50代です。

渋澤栄一さんは50代については、こう振り返っています。

「天命を知るとはなかなか言えないけれども、一生涯を振り返ってみて、自分は官職にはつかないで、民間の仕事を通じて人生を燃え尽くすのだと決めた。一度は官界に入ったけれども、すぐに辞めて、それ以降は自分が決めた一生を送れて良かった。東京市の市長や大蔵大臣になったらどうかと周りから勧められたけれども、皆断わった。これが天命を知ることだったのだと感じている。」

最後の七十代については、「八十四歳になった今でも心の欲するままに行えば、たいいてい矩は超える。必ず乱行となるであろう。それをしないのは、克己（自分自身の自制心）の賜物である」と書き残しています。

皆さんも論語の中で良いと思うものがあったら、自分の人生と照らし合わせて考えて見ると良い。そういう時間をお持ちになると良いと思います。

心に残る言葉

今日紹介するのは、山田方谷が書かれた儉約令です。前回と同様、野島透さんの書かれた『山田方谷に学ぶ 改革成功の鍵』という本から取りました。

方谷は、以下のような儉約令を嘉永三（1850）年に出した。

- 一、 衣服は上下ともに綿織物を用い、絹布の使用を禁ずる。

- 一、 饗宴贈答はやむを得ざる外は禁ずる。
- 一、 奉行代官等、一切の賈い品も役席へ持ち出す。
- 一、 巡郷の役人へは、酒一滴も出すに及ばず。

『山田方谷に学ぶ 改革成功の鍵』野島透著 明德出版社

儉約令は中級以上の武士、豪農豪商と言われる潤沢な人達に対して出したものです。

山田方谷が最初に財政再建で出した言葉は、藩財政に関する上申書の中で、

「金銭の取り扱いばかりを考えていて、決して成就できるものではなく、国政から市民の生活まできちんと治めて出来るものである。政治と財政は車の両輪である。」と書いています。

方谷は具体的には次のような手をとりました。

一つは、藩士の借り米を戻しました。江戸末期の頃の武家は皆、苦しいわけです。お給料はお米です。お給料を貰っても、すぐに又、取り立てられてしまうから、傘はりのような内職で生きていた苦しい状況でした。これを止めて、給料をきちんと払うことを宣言しました。これは当時の藩では画期的なことです。

二つ目は、百姓の年貢を減らしました。江戸時代末期になると百姓や町人の力が強くなってきて、自分の所で出来たものを隠しておくのです。実態としては、本当に召し上げられていく百姓と隠せる百姓があったようですが、そういう事をさせないように、年貢米を取るのを減らしました。

三つ目は、商人に安い金利でお金を貸して、商売が繁昌するように手を打ちました。仕事が無い人には仕事を与える動きをしました。

これによって備中松山藩は、一気に財政再建の道を進み始めたわけです。詳しい事を知りたい方は、どうぞ小学館から出ております私の書きました『理財論』をお読み下さい。

この儉約令のポイントは、「巡郷の役人へは、酒一滴も出すに及ばず」という部分です。この頃は、役人が村の中を視察で見回るわけです。そうすると当時の百姓は一所懸命酒食のもてなしをして、付け届けも出すようなことがごく当たり前に行われていました。それを一切やってはいけないと禁止令を出したわけです。

今の時代は、賄賂はいけないと取り締まっても、目の行き届かない所で沢山やっていますね。民主党の鳩山代表の動きは残念でした。民主党の党費を払うのを寄付金控除の対象にして、戻してもらうという事が新聞に出ていました。賄賂・付け届けが横行している国は確実に駄目になります。個人的にそういったものが当たり前になっていけば、金銭感覚

が麻痺していますから、真っ逆さまに落ちると思います。

山田方谷に関して、もう少しお話しします。

山田方谷が備中松山藩の財政再建をした時に、私の解釈では、今のお金に換算すると 20 億円くらいの年収の会社が 100 億円の借金を背負っていたと説明しています。野島さんの計算では、600 億くらいの借金をしていたと書いてあります。借金は 2400 億と計算する人もいます。

何故これほど違いがあるのでしょうか。違いは、当時の 1 両を何で考えるかです。私はお米で換算して考えています。当然、住んでいる場所によってかなり差がありますから岡山県で考えていますが、1 両は現在のお金で 10 万から 12 万円くらいです。そうすると 10 万両の借金ですから、100 億円です。野島さんは税務署の方ですから、当時の財政規模から推した計算です。岡山県の当時備中松山藩といわれた地域のみを限定して、平成 10 年の財政規模に当てはめると、約 450 億円だそうです。それを逆算していくと、だいたい 600 億にあたると説明しています。他にも、人件費から算出している人もいます。1 両は当時の松山藩で、お手伝いの人を住み込みで 1 年間雇える金額だそうです。今、1 年間住み込みのお手伝いさんを雇うとしたら、いくら位でしょうか。月 20 万円として計算すると 2400 億円です。主婦の 1 ヶ月の家事労働を賃金に換算すると 30 万くらいという数字もあるそうですから、そうなると 3600 億円になりますね。これほど凄まじい違いがでますから、どの計算基準を元にするかで判断が変わってくると理解して下さい。

私は日銀の貨幣博物館に行って色々調べましたが、やはりきちんとした答えが出ませんでした。その時その時の状況に応じて、お米をベースに計算するのか、人件費をベースに計算するのか、それによって違うという答えでした。興味のある方はどうぞお調べ下さい。ただ、べらぼうな金額の借金を、備中松山藩は背負っていたという事です。

知識・見識・胆識で今を見る 新型インフルエンザ・都議選

今、申し上げた事をベースにしながら、今の時代を見てみます。

一昨日、東京ビックサイトで新型インフルエンザに関するセキュリティショーを見て来ました。前回の催しでは、鳥による新型インフルエンザを想定したマスクが結構出ていましたが、今回はマスクというよりは、総合的な対応が出ていました。

アメリカでは今、100 万人位が豚インフルエンザに感染しているだろうとセベリウス厚生長官が語ったと報道されています。日本政府はワクチンの製造を 2500 万人分と予定し

ていましたが、1400万～1700万人分に下方修正し、足りない分は輸入するという対応をとっています。

セキュリティショーに行って怖いと感じたのは、マスクです。どんなマスクでも良いという売り方になっていました。マスクを付けてさえいれば大丈夫だという間違った常識が広がっている事は、怖いと思いました。又、豚による新型インフルエンザでは死なないという常識が生まれて、世間に広がった。それがいつの間にか、新型インフルエンザでは死なないという常識に変わった。これは怖いと思いました。

鳥による新型インフルエンザの本番が始まった時には、今の日本の常識が定着していると、大変な事態になると感じます。200万人から240万人位が死ぬだろうと予想されている数字ですが、私はゼロが一つ増えるという気がします。今の日本政府の後手に回った動き方によって、2000万人を超える人が亡くなるのではないかと思います。マスクにしても、どんどんウィルスが通過して身体の中に入ってきてしまうマスクが売られています。ウィルスの進入を止めてくれる抗ウィルスマスクでなければいけないものが、普通のマスクが当たり前売られていて、これで大丈夫というような錯覚を持たせている。それが新型インフルエンザ対策のセキュリティショーでも、あまり強く言われていませんでした。あったのは防護服や手袋、着替える為の簡易テント等で、企業向けのものばかりが売られていました。

新型インフルエンザを知識の観点で見た時に、知識そのものも、クエスチョンマークになったと感じます。正しい知識は自分自身で調べなければ手に入らなくなってきたと感じます。

明日は東京都議選です。都議選で勝った場合は、民主党が内閣不信任案を出すと言っています。先ほど申しましたように、麻生さんの動きを見ると、知識は沢山ある。見識はどうにか出しました。しかし胆識までいかないものだから、優柔不断で右往左往して、結果として自民党の敗北になったと見えます。

余話 妖変の時代

先ほど「妖変」という言葉を代表幹事がおっしゃられました。この妖変については、昨年から安岡正泰理事長が言い始めています。

今、世の中は本当に妖変の時代になったと思います。この間の、大阪のパチンコ店の放火殺人では、41歳の無職の男性が逮捕されました。秋葉原の無差別殺人と同様、誰でもよ

いから殺したかったという動機です。こういった事件の他にも、米韓同時多発サイバー攻撃でインターネットが麻痺する事件がありました。又、先日、JR西日本の社長が辞任をしました。尼崎の脱線事故は平成 17 年に起きているのです。こんなに時間をかけなければ、起訴できないのかと思いました。

世の中に色々な動きが起きているけれども、自分に関係ないと思うものでも、我が身・我が事として考えると、時々ヒヤッとする事があります。是非そういう癖をつけると良いと思います。自分自身の事に置き換えて、尚且つ、論語の教えや、知識・見識・胆識という見方で分類整理して、自分自身の判断基準の核にされると良いと思っています。

本日の講話は以上でございます。有難うございました。